



EDILKAMIN

TECNOLOGIA DEL FUOCO

ARIS



取扱説明書

※この説明書は初めてご使用になる前に必ずお読み下さい。

目 次

第1章 設置について	3
1-1 はじめに	3
1-2 ペレットストーブの構造、運転について	4
1-3 安全にお使い頂くために	5
1-4 各部の寸法について	6
1-5 電装について	7
1-6 テクニカルデータ	8
1-7 各安全装置について	9
1-8 設置について（設置場所・正しい電気接続のために）	10
1-9 可燃物との離隔等	10
1-10 最初の点火時について	13
1-11 外装の組み立て	14
1-12 排気管の接続について	16
第2章 操作について	18
2-1 ボタン、ディスプレイ説明について	18
2-2 動作機能について	19
2-3 火力の調整	20
2-4 時刻の設定	20
2-5 タイマー機能について	21
2-6 ペレットリザーブ（ペレット量表示）について	23
2-7 非常ボタンについて	24
2-8 アラームについて	25
第3章 メンテナンスについて	28
3-1 毎日するメンテナンス	28
3-2 一週間に一度のメンテナンス	29
3-3 シーズンオフのメンテナンス	30
確認事項及び注意事項（重要）	31
設置と接続について	31
使用前の注意	31

第1章 設置について

1-1 はじめに

このたびはEDILKAMINのペレットストーブをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱い説明書を必ずよくお読みの上、製品を正しく安全にお使い下さい。本説明書の中でご不明な点がございましたら、お買い求め頂きました販売店へお問い合わせ下さい。

—お使いになる前に—

商品を梱包から取り出したら、付属部品が揃っているかご確認下さい。

- 1) セラミック外装、2) 排気キット、3) レバーハンドル、4) リモコン、5) 手袋
6) へら、7) 除湿剤、7) 取扱説明CDと保証書、8) 梱包物確認記載書

—設置と試運転—

ペレットストーブを設置する際は法令・省令・施行令など関係諸法を遵守し、安全で正しい設置計画に基づいた設置を心掛けて下さい。また、EDILKAMIN製品の設置と試運転は、必ず販売店もしくは専門業者に依頼して下さい。

ペレットストーブのご使用に当たって、設置が適切に行われ、正常に機能していることを確認します。

-  このストーブは弊社ペレットストーブ設置基準などに基づき、必ず排気管を取り付けてからご使用下さい。また高気密住宅、及び換気扇のある部屋では給気筒を取り付け、外から給気するようにして下さい。排気管を取り付けずに使用すると一酸化炭素中毒など重大な危険がありますので、絶対にしないで下さい。
-  不適切な設置、正しく行われていないメンテナンスによる不具合、不適切なストーブの使い方によって起こりうる損害に対して、EDILKAMIN社及び北越融雪株式会社は、その責任を負いかねます。
- 製品製造番号等は製品の製造に関するデータを示す大切なもので以下の部品に示されています。
 - 梱包ボックスの上側
 - 燃焼炉の中に入れてある製品保証書
 - ストーブに貼り付けてあるプレート

上記の製品製造番号の記載された書類は大事に保管して頂き、万が一の故障、部品交換時などにご提示下さい。

EDILKAMINペレットストーブ輸入元



北越融雪株式会社

〒948-0008 新潟県十日町市尾崎221番地2
TEL (025) 755-5855 FAX (025) 752-5074

以下のペレットストーブは89/106/CEE基準に適合しています。

ペレットストーブ : ストーブ名称 **ARIS (アリス)**

製品番号 : ストーブ後部プレートに表示 製造年 : ストーブ後部プレートに表示

EDILKAMIN及び北越融雪株式会社は本製品の不適切な設置や使用、改造、純正以外の部品との取替え等により生じた損害について責任を負いかねます。

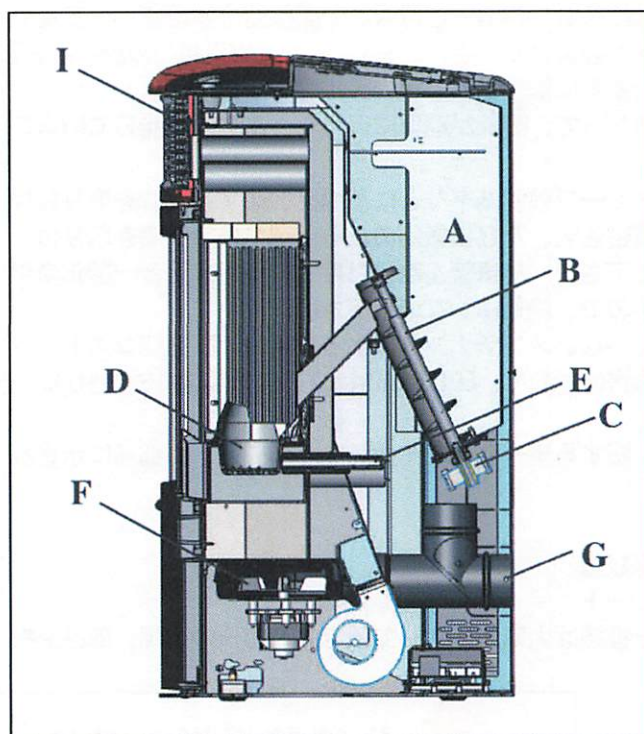
1-2 ペレットストーブの構造、運転について

ペレットストーブ (ARIS) は木質ペレット燃料を燃焼させ、温風を作り、電気によって各機能の作動がコントロールされています。次にそのストーブの動きを説明します。

ペレット燃料は燃料タンク (A) から燃料供給モーター (C) によって回転するスクリュ (B) を通じて燃焼ポット (D) へ運ばれます。点火ヒーター (E) で高温化した空気の熱が排煙ファンによって引き込まれペレット燃料に着火します。ペレット燃料の燃焼によっておこる排気ガスは排気ファンによって排気管 (G) を通過してストーブ後部下側から排出されます。

燃焼炉は鋳鉄製で、前面は耐熱ガラスと鋳鉄製ドアでできています。(ドアの開閉は付属のレバーをお使い下さい。) ペレット燃料供給量、排気量、燃焼用空気量はレオナルドシステム (Leonardo system ®) が搭載された 制御基盤によって調節されており、高い燃焼効率とクリーンな排出ガスを可能にしています。

ARIS にはストーブ本体に操作パネルはついておらず、付属のリモコンによってすべての調整設定を行います。



- A : 燃料タンク
- B : 燃料搬送スクリュ
- C : 燃料搬送モーター
- D : 燃焼ポット
- E : 点火ヒーター
- F : 排気ファン
- G : 排気出口
- I : 温風出口

1-3 安全にお使い頂くために

- ・お使いになる人や他の人への危害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために以下のことをお守り下さい。
- ・本書文中の※マークは本機を正しく使用して頂くための内容が記載されています。

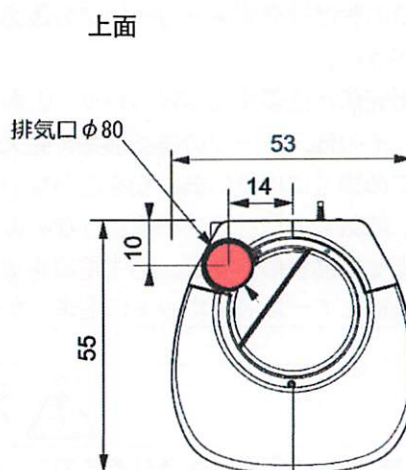
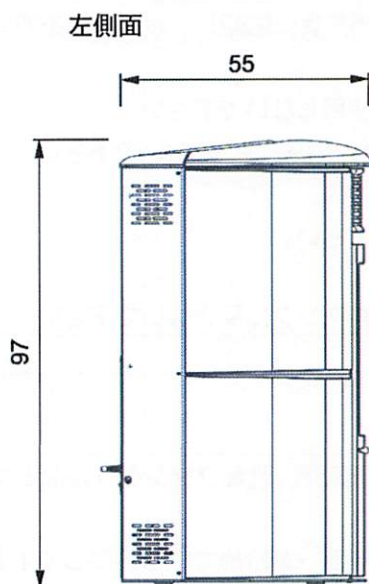
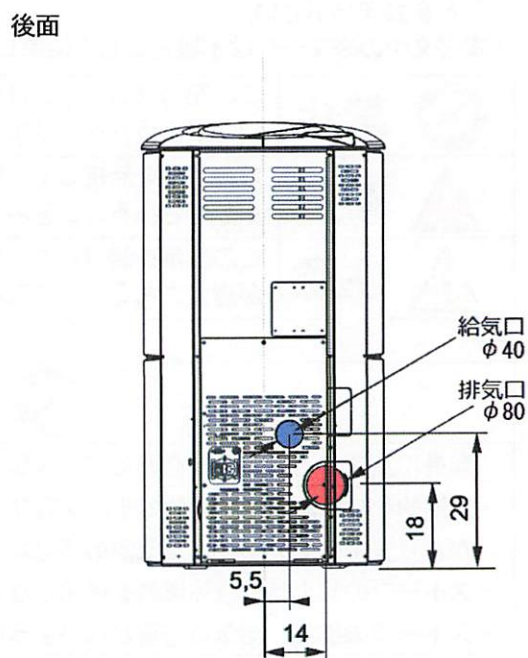
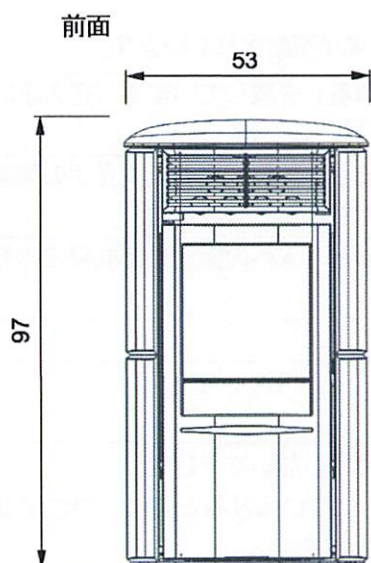
 禁止	この記号はしてはいけないこと「禁止事項」を表しています。重大事故につながる恐れがありますから、絶対に行わないで下さい。
 警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、死傷事故や火災発生の可能性が想定されることを表示しています。十分注意して下さい。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人への傷害や物的損害の発生が想定されることを表示しています。

 禁止	
・屋外に貫通する排気管が必要です。排気管を取付けずに使用しないで下さい。 ・定期的な排気筒掃除が必要です。適切なメンテナンスなしに使い続けると火災につながる危険がありますので、製品を排気筒の掃除なしに使い続けしないで下さい。 ・ストーブの着火時に液体燃料を使用しないで下さい。 ・ストーブの排気、給気口を塞がないようにして下さい。	

 警告	
・ストーブの設置は必ずメーカー指定の販売店、または専門業者に依頼し、設置基準を遵守して行って下さい。 ・燃料は販売店が推奨する木質ペレット燃料以外の燃料を使用しないで下さい。 ・排気管、その他ストーブの排気部品を発火性のある液体などで掃除をしないで下さい。 ・ストーブの周りには熱に弱い物を置かないようにして下さい。 ・排気管と給気管の口径を狭めるようなものを付けしないで下さい。 ・内部の電気部品を触る時は、必ず電源を抜いて下さい。 ・着火を失敗して一度燃焼ポットに溜まったペレットを燃料タンクに戻さないで下さい。	

 注意	
・使用中はやけどの危険性がありますので、前面ガラス、排気管、温風ファングリルなどに触らないで下さい。 ・燃焼炉内、または燃料タンク内の掃除は必ずストーブボイラーが冷めている時にして下さい。 ・扉ガラスの掃除は必ずストーブが冷めている時に濡れ雑巾などで行って下さい。 ・運転中、排気管とストーブの前面ガラスの温度は非常に高くなり、やけどする恐れがあります。本体が熱い時には必ず付属の手袋を使用して下さい。 ・ストーブを水で濡らさないで下さい。また濡れた手で電気部品を触らないで下さい。	

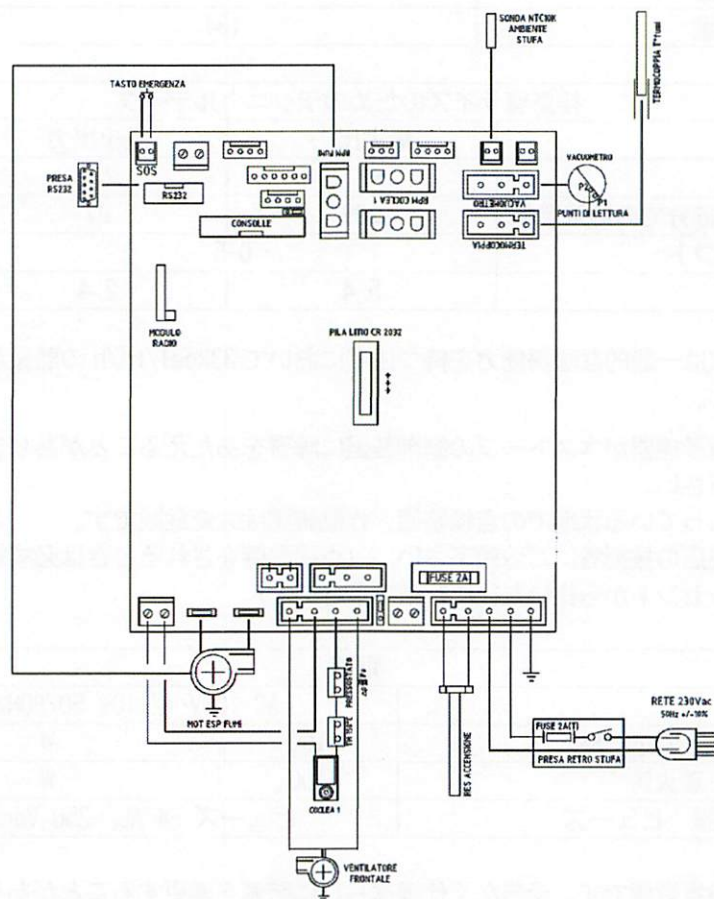
1-4 各部の寸法について



sistema [®]
LEONARDO

レオナルドシステムとは木質ペレット燃料の最適な燃焼状態を保つ機能です。2つのセンサーで常に燃焼状態の測定を行い、自動的、かつ連続的に排気温度と燃焼炉の差圧を測定し、パラメーターを自動調整します。また、排気管の設置条件（エルボー管の数、排気管の長さ、形、内径など）や外気環境（風、湿度、気圧、設置した場所の高度）によって変わるドラフトを最適化調節し、ベストな燃焼状態を作ります。ペレット燃料の種類によって変化する燃焼状態に自動対応し、徐々に排気ファン回転数を調節し、それぞれのペレット燃料の完全燃焼の状態を作り上げます。(Leonardo system®)

制御基盤



- ・制御基盤にはバックアップ電池が付いています。(CR2032 3 volt)
- ・通常このバックアップ電池が消耗した場合、Check Battery とディスプレイに表示されます。これは製品寿命によるものです。(製品不良とは見なされません。)
- ・詳しくは販売店までお問い合わせ下さい。

1-6 テクニカルデータ

	最大出力	最小出力	単位
燃焼出力	8	2.4	kw
熱交換率	90.1	94.67	%
一酸化炭素排出量	0.019	0.035	%
排気温度	174	81	°C
燃料消費量	1.8	0.5	kg/h
ペレット燃料タンク容量	15		kg
ドラフト	12-5	10-3	Pa
連続運転時間	7	24	時間
暖房可能容積	210		m ³
排気管口径	80		mm
給気管口径	40		mm
梱包込重量	184		kg

排気管サイズのためのテクニカルデータ			
	最大出力	最小出力	単位
燃焼出力	8	2.4	kw
排気出口部分での排気温度	209	97	°C
最低ドラフト	0-5		Pa
排煙量	5.4	2.4	g/s

※暖房可能容積は一般的な暖房能力を持つ住宅において 33kcal/m³/h の熱量が必要として算出しています。



1) 周囲の電子機器が本ストーブの制御基盤に障害をあたえることがありますのでご注意ください。



2) 電源が入っている状態での点検整備、作動確認は大変危険です。必ず販売店の技術者にご依頼下さい。（点検整備をされるときは必ず電源コードをコンセントから抜いた後に行ってください。）

電源		
電源電圧	AC 100V +/-10% 50/60Hz	
消費電力 通常運転時	100	W
消費電力 着火時	400	W
制御盤保護 ヒューズ	ヒューズ F4 AL, 250 Vac 4	

上記の数値は参考数値です。予告なく仕様ならびに装備を変更することがありますので、ご了承ください。

1-7 各安全装置について

ストーブ ARIS には各種の安全装置やセンサーがついています。センサーが危険を予測したり、あるいはセンサーが感知できないなど、ユーザーの安全を確保できない時にはアラームやメッセージを表示し、「停止」します。(メンテナンスを促すメッセージなどの場合は停止しないでメッセージのみ)



注意：アラームによる停止は機器の故障を表示するだけではありません。一部故障も表示しますが、センサーが「危険」もしくは、「安全を確保できない」と判断した場合に「停止」します。アラームが頻発する場合は販売店にご相談下さい。

- ・ **排気温度センサー**

排気ファンに装着されており、排気温度を測ります。パラメーターに設定されたデータを着火時、運転時、消火時に感知します。

- ・ **負圧センサー**

燃焼炉内が負圧に保たれているかをチェックするセンサーです。

例：排気管つまりや強風による排気管への逆風など圧力が上がった時にアラーム発生。

- ・ **安全温度センサー**

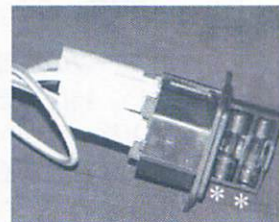
ストーブ内部の温度が異常に上がった時にペレット燃料供給をストップさせストーブを停止させます。

- ・ **感震器**

地震や揺れを感知するセンサーです。出荷時設定では8秒以上の揺れが続いた場合、燃料供給オーガを停止させ、燃料供給をストップします。

- ・ **ヒューズ ***

ストーブ後面の電源スイッチ部品の中に2個のヒューズが装備されており、そのうちの1つはスペアです。



1-8 設置について

設置場所

- ・ペレットストーブは気密性が高い部屋で換気扇を使う場合は FE 式(室内給気式)で使用しないで下さい。FF 式での設置を行って下さい。

FF(外気給気)と FE(室内給気)方式

- ・このストーブは室内給気と外気給気どちらでもできるように設計されています。
- ・室内から給気できる場合はそのままでもいいですが、外気を給気する (FF) 場合は給気ダクト(直径 40mm)をそのまま壁を通し外に出すか、または給気口へ外気を取り込む壁抜き用二重管などに連結させて下さい。

正しい電気接続のために



- ・電源は家庭用 AC 100V 50/60Hz です。コンセントはアース付のものにして下さい。延長コードやタコ足配線は危険です。また、電源コードが排気管に接触しないようにして下さい。



- ・電源プラグを 200V のコンセントに差し込まないで下さい。感電、火災、故障の原因になります。



- ・10%以上の電圧の上昇はストーブを故障させる原因となります。ご注意ください。

1-9 可燃物との距離



- ・ストーブの後部、両側に可燃物質の壁がある場合、最低限以下のように距離を離して下さい。特に排気管の温度は熱くなるので十分に配慮して下さい。



- ・後と横の壁が可燃物質(木造など)の場合は、後 10cm 以上、左 20cm 以上、右 20cm 以上の隔離距離が必要です。ただしメンテナンス時には背面及び側面パネルを外す必要がありますので、やむを得ない場合を除いては、側面の隔離距離は 60cm 以上あけて下さい。



- ・後と横の壁が不燃物質(コンクリートなど)の場合は、後 10cm 以上、左 10cm 以上、右 10cm 以上の隔離距離が必要です。ただしメンテナンス時には背面及び側面パネルを外す必要がありますので、側面側は充分な隔離距離をあけて下さい。



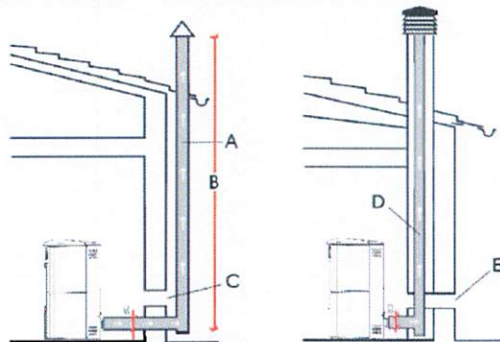
- ・ストーブの前は燃焼炉の輻射熱が強いので 80cm 以内に可燃物を置かないで下さい。また、ペレット燃料は本体上部のふたを開けて補給します。上部には 80cm 程度の空間が必要です。



- ・床面が木質フローリングなど可燃物質の場合は、燃焼室扉の開閉によって火の粉の落下など、危険防止のために金属など不燃材プレートの設置をお薦めします。

排気管の設置基準

-  ・ペレットストーブ排気管はメンテナンスが必要です。後々のメンテナンスが可能な施工法と場所及び部材を採用し、年に一度は排気管内の灰とススを掃除して下さい。特にエルボー管など屈折部には灰が溜まり易いのでよく確認して下さい。
-  ・着火時には排気口から白煙が出ます。微量のススや灰も排出されます。排気口の近くに換気扇や換気システムの給気口がある場所は避けて下さい。また、隣家への影響も十分考慮して下さい。
-  ・1台のストーブに対して1本の排気管を設けて下さい。(2台のストーブの排気を1本の排気管につなげることはしないで下さい。)
-  ・排気管はメーカーが推奨する排気漏れを防ぐ耐熱シリコンなどを排気管の接続部に使用して下さい。
-  ・ペレットストーブの排気管は立上げ配管を基本とし、立上げ距離は最低 1.5m 以上、概ね 2m 程度を目安とし、排気出口は必ず屋外に設けて下さい。
-  ・横引き配管は立上げ距離との比率が2分の1以下とし、エルボーなど配管の曲がり回数は3曲がり以内として下さい。横引き部、屈折部を多くするとスムーズな排気を妨げ、灰詰まりの原因となり、正常な運転を妨げる原因となります。
-  ・屋内立上げにおける可燃壁面と排気管との距離について、一重管の場合は150mm以上離して下さい。ただし断熱効果の高い二重管、中空二重管、給排気管についてはこの限りではありません。設置要領などに従って下さい。
-  ・排気口トップを風圧帯に設置するのは避けて下さい。建物の北・西面や海・川側、入隅や軒下などシーズン中強風にさらされる場所「風圧帯」には排気口トップを設置しないで下さい。正常な排気ができず、アラームの発生原因になります。
-  ・強風地域、もしくは強風が予想される場所へ排気口トップを設置する場合には、全周耐風圧対応の排気口トップ（オープンドラムトップなど）を使用して下さい。
-  ・基本的に屋内配管は鉄管で可能ですが、壁貫通管から屋外配管については、ステンレス製配管か防錆塗装を施した配管を使用して下さい。また、寒冷地で排気管の屋外立上げをするときは排気管内の結露を防ぐため二重管をご使用下さい。



A：二重排気管

B：高さ 2m 以上（※最低 1.5m 以上立上げて下さい。それ以下だと万が一の停電時にドラフトが生じにくくなり、排気の逆流と設置部屋での不完全燃焼や排気漏れの原因となり危険です。）

C-E：外部からの給気口（給排気壁抜き用 2 重管をご使用下さい。）

D：既存する煙突を利用する場合

壁貫通基準

- ・排気管を壁貫通する場合、断熱処理なしの一重管を絶対に壁貫通に使用しないで下さい。一重管で壁貫通する場合はめがね石等不燃性断熱材を設置するか、十分に断熱性能が確保された耐熱断熱材を使用して、貫通穴を全周覆い排気管の熱が直接触れぬよう配管して下さい。
- ・壁貫通二重管もしくは給排気二重管を使う場合でも壁貫通部には不燃性断熱材を入れ、壁と配管が直接接触しないよう配管して下さい。
- ・排気管、給気管等の壁貫通部から室内へ雨水などが入らないよう注意して配管して下さい。また、屋外立上げ管の排気トップも下向きにするなど、雨水が侵入しない対策を行なって下さい。
- ・排気口トップと外壁の窓など開口部までは上方 1m 以上、側方 15 cm 以上の離隔を取って下さい。また、FF 配管をする場合は排気口トップと給気口との離隔を 1m 以上離して下さい。

1-10 最初の点火時について

製品保証のためにも最初の設置、調整はエディルカミン販売店が行う必要があります。排気管の設置方法や、使用するペレット燃料の種類に応じてパラメーター調節（排気ファンの回転速度やペレットの燃料の供給量及び自動クリーニングの調節）をエディルカミン販売店が設置時に行います。エディルカミン販売店により設置が終わった後、製品保証登録を販売店が輸入元に行います。最初の点火後しばらく塗装の臭いがする場合がありますので、そのときは換気を行って下さい。

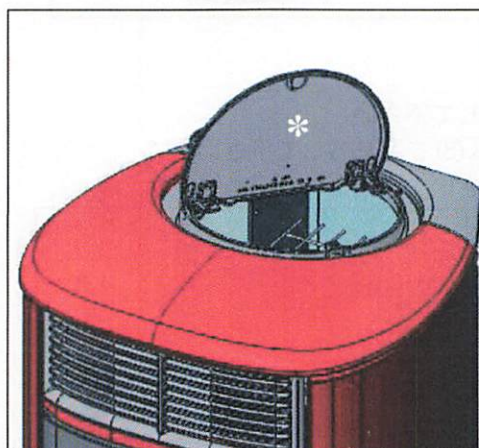
最初の点火前に以下のことを点検して下さい。



- ・正しい設置がされているかどうか、電源は間違いないか（AC 100V 50/60hz）
燃焼ポットに何も入っていないか、操作パネルディスプレイを確認して下さい。（正常の場合は日時、火力、または温度表示が点滅します。）



- ・ペレットタンクの蓋(*)開け燃料タンクにペレット燃料を入れます。



1-11 外装の組み立てについて

図 1

納品時にはストーブは図 1 の状態です。

A: サイドパネル B: セラミック固定用フレーム C: 鋳鉄製グリル

以下の部品は別梱包になっています。

- ・セラミック側板(4)・セラミック天板(1)・セラミックグリル下部(1)・ローレットネジ M4 (16)
- ・ゴムパッド(4)・真鍮ワッシャー(4)・ネジ M6×10 (2)

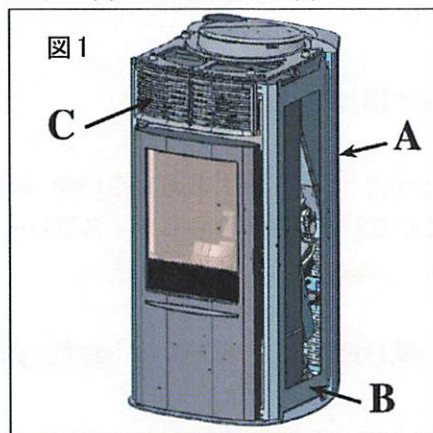


図 2

- ・サイドパネル(A)を取り外して下さい。
- ・セラミック固定用フレーム(B)を取り外して下さい。
- ・グリル(C)を取り外して下さい。

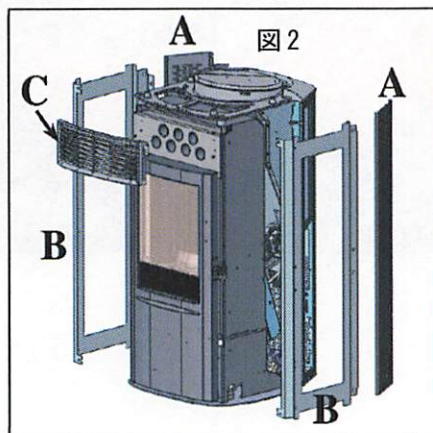


図 3

ストーブ本体に固定させて側面の組み立ては完了です。

- ・ローレットネジ M4 を使用してセラミック側板をフレーム(B)に取り付けて下さい。

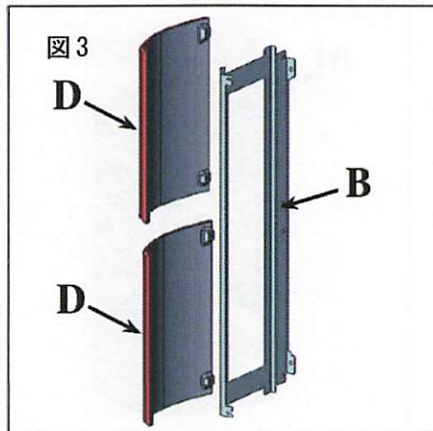


図 4

ネジ M6×10 を使用してグリル(C)にセラミック(E)を取り付けて下さい。

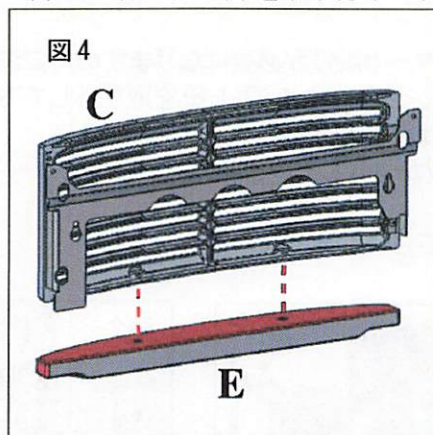


図 5

- ・セラミック外装 (C+E, B+D) を取り付けて下さい。
- ・サイドパネル (A) を取り付けて下さい。

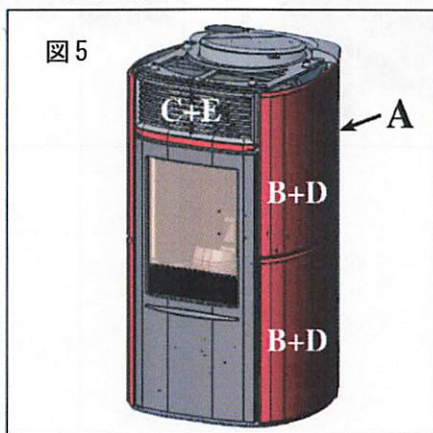
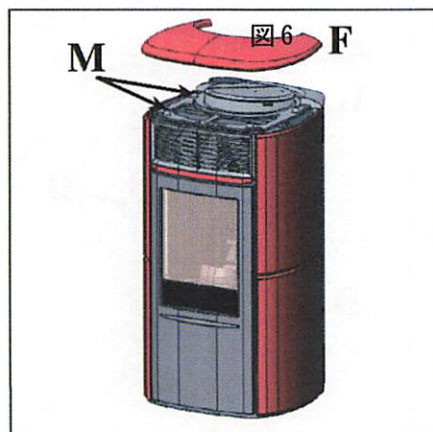


図 6

- ・ゴムパット(M)を取付、セラミック天板を取り付けて下さい。



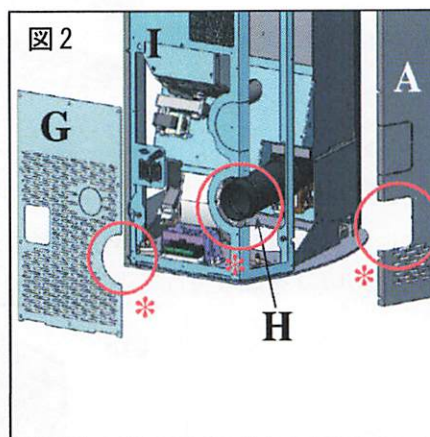
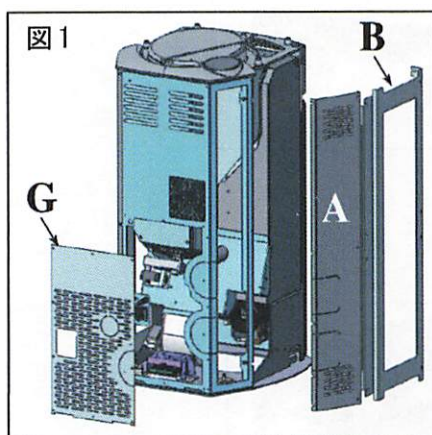
1-12 排気管の接続について

後方排気

- ・後方排気にはEK アダプター(別売)が必要になりますのでご注意ください。
- ・サイドパネル(図 1-A, B)、背面パネル(図 1-G)を取り外して下さい。
- ・EK アダプターを取り付けます。(図 2)

※耐熱ガスケットチューブが付属していますのでそちらでコーキングをした後に付属の金具で止めて下さい。

- ・図 2-※の部分を外して下さい。

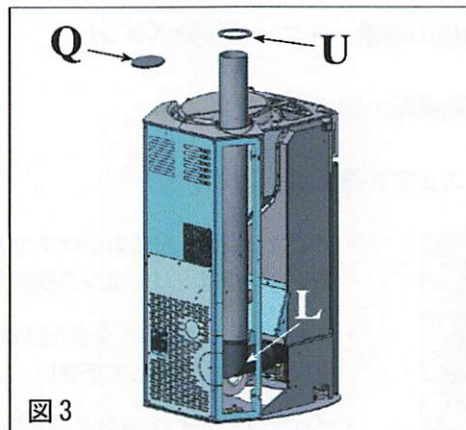


上方排気

- ・ 付属の 90° (図 3-L) エルボーを取り付けて下さい。

※耐熱ガスケットチューブが付属していますのでそちらでコーキングをした後に付属の金具で止めて下さい。

- ・ 上部排気用プレート(図 3-Q)を外して下さい。
- ・ 排気管(別売)を接続して下さい。
- ・ 排気管リング(図 3-U)を取り付けて下さい。



第2章 操作について (ARIS は付属のリモコンで全ての操作を行います。)

2-1 ボタン、ディスプレイ説明について

- ・  ボタン (着火、消火ボタン)
- ・  ボタン (数値の増減、メニュー移動ボタン)
- ・  ボタン (自動運転の切替ボタン)
- ・  ボタン (マニュアル運転の切替ボタン)



- ・ アイコン点滅：リモコンはネットワークを検索しています。
アイコン点灯：リモコンの接続が有効になっています。



- ・ ロックアイコン(ロックまたはロック解除する場合は「M」と「A」を長押しして下さい。)



- ・ バッテリーアイコン(3 ミニアルカリ乾電池単 4)



- ・ タイマー設定有効時に表示します。



- ・ 16 の数字からなる数字表示がされます。



- ・ アイコンの点滅時：ストーブは ON 状態。
アイコンの点灯時：ストーブは着火作動中。



- ・ マニュアル運転時表示 (リモコンディスプレイに火力が表示されます。)



- ・ 自動運転時表示(リモコンディスプレイに設定された 室温が表示されます。)

ディスプレイは、上記アイコンの他、下記の情報を表示します。

- ・ OFF 状態時
 - 現在の室温(°C)、残りペレット残量(kg)、現在の時刻(例 15 : 30)
- ・ マニュアル運転時
 - 現在の火力(1~5)、現在室温(°C)、残りのペレット残量および残り稼働時間(例 15kg、21)
- ・ 自動運転時
 - 設定室温(°C)、現在室温(°C)、残りのペレット残量および残り稼働時間(例 15kg、21)



※何度も  ボタンを押さないで下さい。

- ・ 操作が数秒間使用されない場合は省電力モードに移行し、ディスプレイは消灯します。ディスプレイが消灯している場合は、いずれかのボタンを押すことによってストーブに再接続することができます。

2-2 動作機能について

ペレットスクリュース単独操作

- ・初めストーブのタンクおよびペレットスクリュース内のペレットは空になっています。
 - ・ペレット燃料を入れ **+** **-** ボタンを同時に数秒間押して下さい。
 - ・ディスプレイに「LOAD」と表示されます。
 - ・燃焼ポットにペレットが落ちてきたら **M** ボタンを1回押してキャンセルして下さい。
-  ※着火する前に、燃焼ポット内を空にして下さい。燃焼ポット内のペレットはタンク内に戻さないで下さい。

自動着火

- ・  ボタンを2秒間、押して下さい。最初に30秒間の試験動作を行いディスプレイに「START」と表示がされます。
- ・同時にカウントダウンが始まります。(20分程度)着火、燃焼状況により数値は増減します。カウントが0になるとストーブはON状態になります。
- ・着火までに約5分かかります。

手動着火

- ・マイナス3度以下の寒い環境、または長期間ストーブを使ってない時、着火ヒーターが赤く熱を持たず、ペレット燃料にうまく着火しないときがあります。
- ・そのときは燃焼ポットに着火材などを入れて扉を閉め  ボタンを2秒間、押して着火して下さい。

消火方法について

- ・  ボタンを2秒間押して下さい。ディスプレイ上に消火までの時間が表示されます。(数値は消火までの目安の時間です。)
- ・消火作業中はペレットの供給が止まり、排気ファンの回転数が最大になります。



※消火作業中は電源プラグを抜かないで下さい。

2-3 火力調整

マニュアル運転時

- ・リモコンの **A** ボタンを「POWER P」と表示されるまで押して下さい。
- ・ **+** **-** ボタンを押し、お好みの火力を設定して下さい。(火力：1～5)

自動運転時

- ・リモコンの **A** ボタンを(AUTO SET)と表示されるまで押して下さい。
- ・ **+** **-** ボタンを押し、お好みの室温を設定して下さい。(室温設定：5～35℃)
- ・ストーブは設定された室温に達すると火力を自動的に下げ、設定温を維持します。室温が下がるとまた元の火力に戻し、設定温を維持します。

2-4 時刻の設定

- ・リモコンの **M** ボタンを2秒間押して下さい。
- ・ディスプレイに「Clock」と表示がでます。
- ・リモコンの **M** ボタン1回押して下さい
- ・ **+** **-** ボタンを押し時刻設定を行って下さい。
- ・データが順番に表示され、調節することができます。(曜日、月、年、時、分、日)
- ・設定するたびに **M** ボタンを押し設定を確定して行って下さい。
- ・最後のディスプレイ上に「SAVE?」と表示が出たら **M** ボタンを押して下さい。
- ・「SAVE」と表示に変わったら設定成功です。



・時刻設定はタイマー着火・停止の際、非常に重要なので確実に行って下さい。

2- 5 タイマー機能について

※タイマー着火・消火は3つのプログラムを設定することができます。

- ・リモコンの  ボタンを2秒間押して下さい。
- ・  か  ボタンを押して「PROGRAM ON/OFF」が表示されたら  ボタンを押して下さい。
- ・操作が正しければ以下の表示がされます。
 - NO PROGR : タイマー設定なし
 - DAILY PROGRAM : 毎日タイマーの設定
 - WEEKLY PROGRAM : 週間タイマー (各曜日で) 設定
- ・プログラムを切り替えるには  か  ボタンを押して下さい。

毎日タイマーの設定

- ・  か  ボタンを押して「DAILY PROGRAM」が表示されたら  ボタンを押して下さい。
- ・  か  ボタンを押すことにより1日のプログラムの数を設定することができます。
- ・次に  か  ボタンを押すことにより、次のような表示がされます。
 - SELECT N° PROG (設定なし)
 - 1st prog. (1日1回、着火・消火する場合)
 - 2st prog. (1日2回、着火・消火する場合)
 - 3st prog. (1日3回、着火・消火する場合)
- ・1日のプログラム数を決定して  ボタンを押して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 ON HOUR (着火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して着火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 ON MIN (着火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して着火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 OFF HOUR (消火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して消火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 OFF MIN (消火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して消火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。

- ・最後のディスプレイ上に「SAVE?」と表示が出たら  ボタンを押して下さい。
- ・「SAVE OK」と表示に変わったら設定完了です。

週間タイマーの設定

※タイマーを有効にする曜日の表示は例えば日曜日なら「7DO PROG N° 1」です。

曜日はイタリア語で表示されますが、数字で判断して下さい。

1 LU(月曜日) 2 MA(火曜日) 3 ME(水曜日) 4 GI(木曜日)
5 VE(金曜日) 6 SA(土曜日) 7 DO(日曜日)

- ・毎日タイマーと同じ要領で曜日ごとのプログラムを設定して下さい。
- ・着火、消火を選択するために  ボタンを押して曜日ごとの確認をして下さい。
- ・設定保存せずにプログラムを終了することができます。  ボタンを押し「NO SAVE」と表示されれば完了です。

2-6 ペレットリザーブ（ペレット量表示）について

- ・ ARIS にはタンク内のペレットの残量を適当な目安として表示する検知機能を取り付けられています。検出システムはペレットが何 Kg 残っていて、あと何時間位運転できるか適当な目安を表示します。
- ・ システムを有効にする前に、タンク内にペレットを入れ、補給された燃料が尽きるまで、ストーブを使用する必要があります。
- ・ この後タンクいっぱいペレットをいれてストーブを起動させて下さい。
- ・ 燃料タンクには 15kg のペレットを入れることが可能です。「Reserve」と点滅しながらディスプレイ表示されます。
- ・ この時点でストーブに何 kg のペレットを入れたか記憶させる必要があります。

以下の手順を行って下さい。

1. **M** ボタンを2秒間押して下さい。「Clock」と表示されます。
2. 「RESERVE」と表示が出るまで **+** か **-** ボタンを押して下さい。
3. **M** ボタンを押して下さい。以下の図が表示されます。



その後追加したペレットの量(上記の例では 15kg) **+** か **-** ボタンを押して決定して下さい。

+ ボタンを押して下さい。

4. 確認して正しければ **M** ボタンを押して下さい。

5. **⏻** ボタンを押してメニューから出て下さい。

※15kg を消費した後、上記の手順を完了した後に、「RESERVE」が表示されます

2-7 緊急時操作ボタンについて

- ・リモコン操作ができなくなった場合に下図のストーブの赤いボタンを押すことによってストーブの簡単な操作をすることができます。

1 回または複数回押してみてピッと音ができるのを確認してから使用して下さい。

ストーブ OFF 時

2 秒間赤いボタンを押すとストーブは ON になります。

ストーブ ON 時

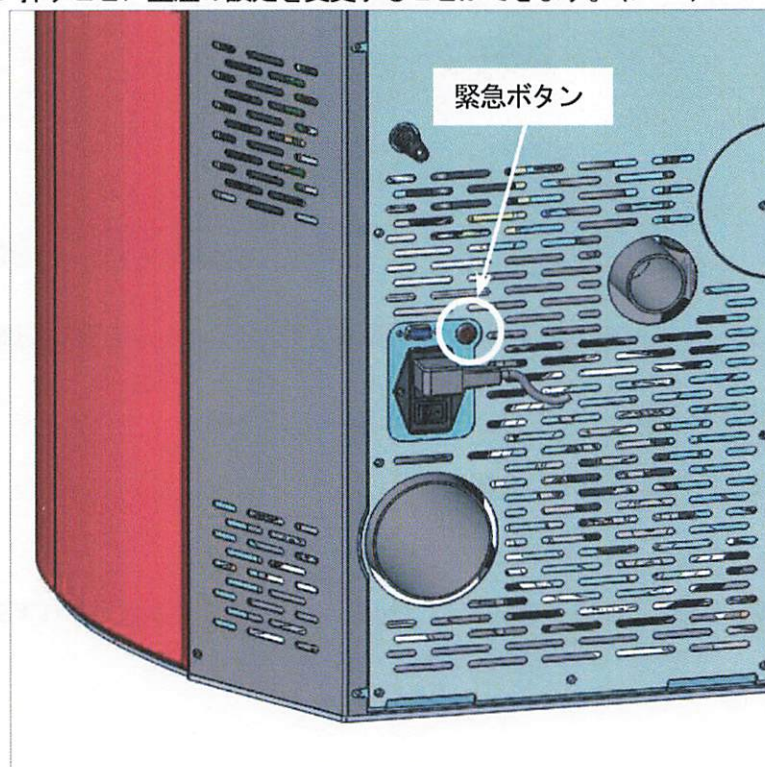
2 秒間赤いボタンを押すとストーブは OFF になります。

ストーブ ON 時(マニュアル運転時)

赤いボタンを押すごとに火力を変更します。(1~3)

ストーブ ON 時(自動運転時)

赤いボタン押すごとに室温の設定を変更することができます。(0~30)



2-8 アラームについて

ストーブ（ARIS）にはユーザーの安全を確保する為、各種センサーが付いていて、安全と燃焼に関する諸要因をチェックしています。

機器や部品の故障、燃料切れなど燃料に起因する不具合、強風や地震など自然現象起因の不具合、停電・漏電・雷・不正電流など電氣的な不具合、給気・排気に関する不具合、また設置工事の不具合や掃除不足が引き起こす不具合など、**安全が確保できないという理由で異常を感知した場合にも自動的に消火作業を行います（停止）。**

※ペレット燃料供給が止まり、排気ファンの回転数が最高にまで上がります。

その時、ディスプレイには問題の原因を表示します。（以下のアラームリストを参照）



- ・アラームが発生した場合、自動的に消火モードに移行しますから、電源プラグを抜いたり、電源スイッチを切らないで下さい。

室内に煙が漏れ一酸化中毒及び火災の原因になります。



- ・アラームが発生してストーブが消火モードに入った場合、完全にストーブの消火作業が終わってから再着火するようにして下さい。



- ・赤い緊急ボタンを長押しすることによってアラームを解除できます。
- ・アラーム発生時はその原因を確認し、燃焼ポット内のペレット燃料を取り出してから



ボタンを押して再着火して下さい。



※アラームを解除するとストーブが完全にOFF の状態になり、煙が部屋内に逆流する可能性があります。

ストーブが完全にさめている状態で解除して下さい。再着火時には燃焼ポット内がきれいであることを確認して下さい。

アラームリスト

◆Verific/extract

原因：排気ファンの回転数に異常を感じた時に表示されます。

対応：排気ファンの調子を確認

：排気管の掃除状態の確認

：電気の設置状態を確認（アース接続はあるか）

：制御基盤の確認（販売店に依頼して下さい。）

◆Stop/Fire

原因：排気温度センサーがパラメーターに設定されている最低排気温度より低い温度を感知し、燃焼がうまくできていないときに表示されます。

対応：燃料タンクにペレットが入っているか確認

：ペレット燃料の過度の供給（販売店に調整を依頼して下さい。）

：最高排気温度の設定の確認、調整（販売店に依頼して下さい。）

◆Block-FI/NO Start

原因：スタートボタンを押して 15 分以内に点火しなかった場合、もしくは 15 分以内に点火確認温度まで (100℃) に排気温度が達しなかった場合に表示されます。

以下の 2 つの場合が考えられます。

・点火しなかった場合

対応：燃焼ポットの掃除と位置の確認

：着火ヒーターが故障していないか確認(販売店に依頼して下さい。)

：部屋の温度と湿度 (3℃以下の場合は着火材の使用をおすすめします。)

・【Start】の表示の後、火が消え【Block FI/NO Start】が表示された。

対応：排気温度センサーの確認(販売店)

：パラメーターに設定されているスタート温度を確認する。(販売店)

◆Check Air flow

原因：煙突の詰まり

：給気口が詰まっている

：給気センサーが汚れている

：強風・逆風によって排気障害がおきている

対応：ストーブ、煙突のクリーニング

：給気センサーのクリーニング

：排気トップの改良・変更

◆Failure Power

原因：停電によるストーブの停止

対応：コンセントが外れてないか確認して下さい。

◆Fault/RC

原因：排煙センサー壊れたか、所定位置から外れている時、表示されます。

対応：制御基盤からの配線の確認、コールドテストで機能の確認(販売店)

◆Smoke℃/high

原因：最高排気温度を超えて消火モードになった時に表示されます。

対応：ペレット燃料の種類の確認

：排気ファンモーターに異常がないか確認

：排気管に何か詰まっていないか確認

：正しい排気管の設置がされているか確認

：燃料供給モーターに滑りがないか確認

：正しく給気がされているか確認

◆Battery check

原因：応急バッテリーの交換時期になると表示されます。

対応：制御基盤の応急バッテリーを交換して下さい。

◆High current

原因：燃料供給モーターへの電流値が設定域の上限より高い値を感知した場合に表示し停止します。

対応：オーガモーターの確認

：配線間違いによるモーターの故障

◆Low current

原因：燃料供給モーターへの電流値が設定域の下限より低い値を感知した場合に表示し停止します。

：差圧センサーの介入

：燃料タンクサーモスタットの介入

◆その他の不具合

問題：リモコンが動かない

対応：電池の交換をして下さい。

問題：温風が暖かくない

対応：熱交換室内の掃除

問題：着火時にヒューズが飛んで電源が切れる。

対応：着火ヒーターが湿っていないか確認

問題：点火しない

対応：燃焼ポットの掃除



- ・ おおよそ 2000kg のペレット燃料を燃焼させると【Mainten dealer】と表示されます。これは専門業者によるメンテナンスを促す表示です。上記の方法では表示が消えませんが販売店にお尋ね下さい。パラメーターメニューに入らないと表示が消えないようになっています。



- ・ 赤い緊急ボタンを押すまですべてのディスプレイ表示は消えません。問題を解決するまではストーブの再着火しないで下さい。



- ・ 内部の部品を確認するときは必ずストーブの主電源を切りコンセントを抜いて下さい。

第3章 メンテナンスについて

ペレットストーブ最大の特徴は木を燃すことで得られる温かさと炎です。しかし、半面、固形の木質ペレットを燃料としますから、灰も出ればススも溜まります。従って、毎日の本体掃除はもちろんのこと、熱交換パイプや排気管の定期的なメンテナンスなしでは安心して使い続けることができません。



- ・ペレットストーブは毎日の灰掃除が基本です。安全に使い続けるために、必ず毎日掃除行って下さい。また、熱交換室や排気管は定期的なメンテナンスが必要です。

安心、安全に使い続けるためにメンテナンスなしでは使わないで下さい。

(年に一度は専門技術者による有償メンテナンスをお薦めします。)



- ・メンテナンスが不足しているとストーブが正常に機能しない場合があります。
- ・またメンテナンス不足によるストーブの保証、不具合については製品保証が利用できない場合があります。



- ・メンテナンスを行う前に必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

※ストーブが完全に停止して完全に冷めている状態でクリーニングを行って下さい。

3-1 毎日のメンテナンス



- ・燃焼炉内の灰は原則毎回掃除して下さい。特に燃焼ポット(図 1-1)の底面部にある小さな給気穴が灰でふさがっていると、点火時に点火できないことがありますので、毎回確認して下さい。



※ストーブが完全に冷えている状態で行って下さい。

- ・掃除には専用の灰掃除機を使用することをお薦めします。ドアを開き、燃焼ポット(図 1-1)を取り出して、ポット内の灰を灰受け皿に移して下さい。(図 2-2)



- ・灰受け皿を(図 2-2)引き出し、灰を非可燃性の容器の中に移して下さい。
- ・燃焼ポット、灰受け皿、燃焼室に残った灰を掃除機できれいに吸って下さい。
- ・燃焼ポット内できた灰の塊などはブラシできれいにおとして下さい。
- ・ガラスが曇っていたら濡れたぞうきんやティッシュで拭き取って下さい。



※ガラスが冷めている時にして下さい。

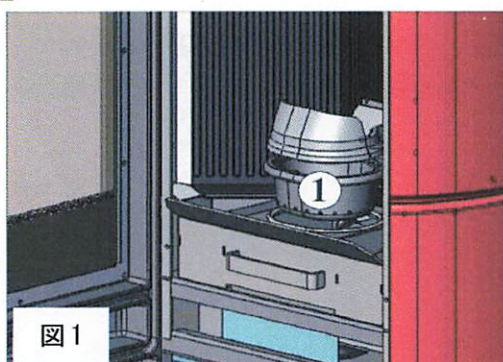


図 1

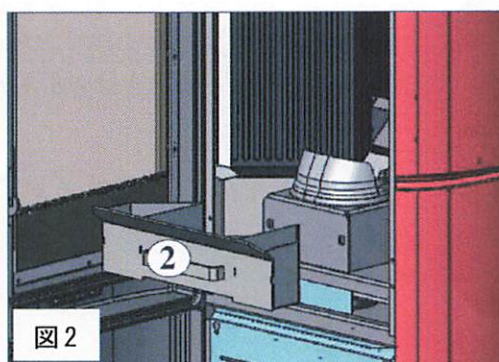
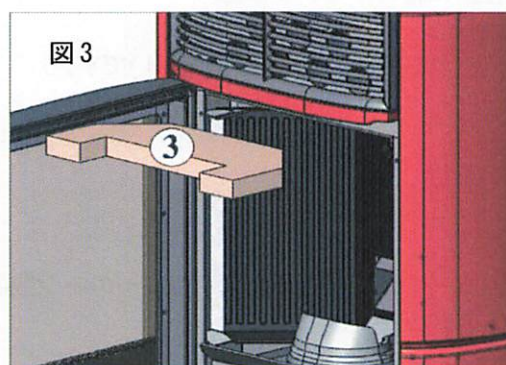


図 2

3-2 1週間に一度のメンテナンス

- ・パーミキュライト(図3-3)を取り外し、パーミキュライトに付着した灰やススを取除いて下さい。
- ・パーミキュライトを取り外し、上部にある熱交換パイプに付着した灰やススを刷毛などで取除いて下さい。



燃烧ポットをクリーニングした後下図のようにしっかりと固定されているか、ご確認ください。



3-4 シーズンオフのメンテナンス

- ・ 外装および内部部品を掃除して下さい。
- ・ 熱交換パイプのクリーニング
- ・ 燃焼室に付着した灰やススの除去
- ・ ファン類の清掃や電気接続に緩みがないか確認
- ・ ストープ内の排気管の清掃(シールなどの交換)
- ・ 排気管の清掃(ゴムパッキンは1年1回交換が望ましいです。)
- ・ センサー類の清掃
- ・ 着火ヒーターの清掃
- ・ 必要に応じて破損部品の交換
- ・ リモコンの清掃、表示パネルの確認
- ・ 電源ケーブル接続の確認
- ・ ペレット燃料供給スクリューの清掃また燃料スクリューのネジ類の緩み確認
- ・ 必要に応じてドアのシールの交換
- ・ 10分ほど試運転し最終確認

※もし毎日のストーブの使用時間がとても長い場合、または灰が多く出る場合には3ヶ月に一度排気管の掃除をおすすめします。



- ・ 毎年ストーブのクリーニング及びメンテナンスを販売店に行ってもらって下さい。
- ・ 自分で行う場合は販売店で講習を受けて下さい。
- ・ 適切ではないクリーン及びメンテナンスは火災の原因になります。

確認事項 及び 注意事項 (重要)

設置と接続について



- ・エディルカミン販売店技術者のサービスによる設置であり保証書、マニュアルがお客様に手渡されたことをご確認下さい。



- ・FE式（室内給気）の場合は換気口が部屋にあること、または面積の狭い部屋でないことを確認して下さい。気密性の高い部屋に設置される場合は外気を給気するFF式の配管方法で設置して下さい。（詳しくは販売店にお尋ね下さい。）



- ・集合煙突は危険です。排気管1本にはストーブ1台のみ設置して下さい。（2台のストーブの排気を1本の排気管にまとめることはしないで下さい。）



- ・排気管接続の基本は排気抵抗を少なくしてスムーズなドラフト（上昇気流）を発生させることにあります。エルボー管（曲り部）を使う場合は最大3曲り以内として下さい。



- ・排気管の水平方向への横引きは2メートル以上引かないようにして下さい。



- ・排気管は接続部に排気漏れ止めシールのついた金属製の排気管パイプであること。



- ・燃焼はペレット燃料以外のもの（例えば薪など）を燃やさないようにして下さい。

使用前の注意



- ・ペレット燃料は湿気が少なく、灰分の少ないペレット燃料（ホホワイト、全木ペレット）をお勧めします。日本各産地で作られているペレット燃料は、木の材質、圧縮度、サイズ（直径6mmと7mmのものががあります。）がさまざまで、すべて同じように燃焼するとは限りませんので、販売店が推奨するペレットをご使用下さい。むやみにペレット燃料の種類を変更すると、燃焼状態が変わり、場合によっては不完全燃焼、異常加熱を引き起こす可能性があります。



- ・毎回使用前には燃焼ポット内に灰がたまっていないか、または燃えきっていないペレットが残っていないか確認して下さい。もし残っている場合は掃除機などを使ってきれいに掃除をして下さい。



- ・正しい位置に燃焼ポットが置かれていること、ドアが完全に閉まっていることを確認してからスタートボタンを押して下さい。

